第2回 日薬連 環境セミナー プログラム

日 時：2022年2月25日（金）13：00～ ： 受付開始12：40～

ウェビナー：Teams 開催

ホスト：日本製薬団体連合会

13：00～13：05 諸事項説明

13：05～13：10 開会の挨拶 環境委員会 委員長 木村 光宏

13：10～13：30 「日薬連低炭素社会実行計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 低炭素社会実行計画 WG リーダー 有馬 寛

製薬業界は、経団連のカーボンニュートラル行動計画（旧：低炭素社会実行計画）に参画し、工場や研究所をはじめ、営業車両やオフィスでも様々な地球温暖化対策に取り組んでいます。日薬連の低炭素社会実行計画について、2020年度までの取り組みと、カーボンニュートラルに向けた長期ビジョンの策定、2030年目標などについてご紹介いたします。

13：30～13：50 「日薬連循環型社会形成自主行動計画の取り組み」

日本製薬団体連合会 環境委員会 循環型社会 WG リーダー 木村 光裕

資源循環の向上による廃棄物の削減と省資源化により環境負荷低減を目指す「経団連循環型社会形成自主計画」に日薬連は参画しており、その概要についてご説明します。その後、日薬連における「循環型社会形成自主行動計画」の取り組み状況と、2021年度フォローアップ調査結果についてご報告します。

13：50～14：00 休憩

14：00～14：50 「カーボンプライシングの今後の方向性」

経済産業省 産業技術環境局 環境経済室 吉倉 宏明

世界のGDP約90%を占める国々がCN（カーボンニュートラル）を宣言し、国内企業も200社以上がCNを表明するなど国内外のグリーンを取り巻く状況は急激に変化しています。CN実現に向けた手段の一つであるカーボンプライシングについて、日本の現状や経産省が年末に打ち出したGX（グリーントランスフォーメーション）リーグの基本構想を中心に説明します。

14：50～15：40 「COP26の結果と今後の展望について」

環境省 地球環境局参事官（国際地球温暖化対策担当） 水谷 好洋

昨年秋に英国グラスゴーで開催された国連気候変動枠組条約第26回締約国会合（COP26）の成果（世界全体の排出削減のさらなる強化、パリ協定実施指針の交渉結果（市場メカニズム、透明性等）、日本の取組の発信内容など）や、今後の展望について紹介します。

15：40～15：50 休憩

15：50～16：30 「三菱ケミカルにおけるサーキュラーエコノミーへの取り組み」

三菱ケミカル株式会社 経営執行職 フィルムズディビジョン長

フィルムズ&モールドィングマテリアルズドメイン 江川 洋介

当社は、2050年のカーボンニュートラル実現に向けて、2030年の削減目標を達成すべく活動を進めています。GHG削減に向けてはサーキュラーエコノミーを進化させていく必要がありますが、既存事業においても今できることをお客様にご提案しています。本日は、その取り組みの一部と、バイオマスプラスチックを使用した製剤包装（PTP）への転換についてご紹介します。

以上